



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月8日

上場会社名 井村屋グループ株式会社 上場取引所 東・名
 コード番号 2209 URL <https://www.imuraya-group.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中島 伸子
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役ファイナンス室長 (氏名) 富永 治郎 (TEL) 059-234-2146
 四半期報告書提出予定日 2022年11月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	21,493	10.1	1,143	82.7	1,526	103.7	1,337	189.8
2022年3月期第2四半期	19,527	—	625	190.5	749	183.5	461	196.8

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 1,255百万円(155.0%) 2022年3月期第2四半期 492百万円(105.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	102.19	—
2022年3月期第2四半期	35.27	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期の売上高については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	32,803	18,299	55.7
2022年3月期	29,422	17,392	59.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 18,261百万円 2022年3月期 17,347百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	26.00	26.00
2023年3月期	—	0.00			
2023年3月期(予想)			—	26.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	43,000	2.0	1,650	△3.2	1,750	△15.7	1,150	△21.9	87.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年3月期2Q	13,086,200株	2022年3月期	13,086,200株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2023年3月期2Q	1,803株	2022年3月期	1,800株
------------	--------	----------	--------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年3月期2Q	13,084,398株	2022年3月期2Q	13,084,476株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(会計方針の変更)	11
(セグメント情報)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症対策による行動制限が段階的に緩和され、経済活動は緩やかな持ち直しの動きが見られるものの、ロシア・ウクライナ情勢も長期化し、急激な円安が進行する中でエネルギー価格や原材料の上昇が続き、厳しい経営環境で推移しました。

菓子・食品業界におきましても、原材料費や物流費の上昇に対する商品価格改定の動きが見られる中、お客様の節約志向の強まりも懸念され、厳しい経営環境が続くことが予測されます。

このような状況のもと、本年当社グループは創業125年 会社設立75周年を迎えました。また、中期3カ年計画「Be Resilient 2023 ～新しい時代をしなやかに生きる～」の2年目にあたり目標達成に向けた重要な年度となります。2022年度は何事にも果敢に挑戦する「進取」をテーマとし、将来を見据え、サステナビリティの高い企業体質構築と収益構造の変革に向け活動しております。

井村屋株式会社ではグループ全体の成長戦略の一環として、三重県津市の中勢北部サイエンスシティ内に価値創造を高めた新工場である「あのとFACTORY」の建設を進めており、順調に進捗しております。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、井村屋株式会社の冷蔵カテゴリーが順調に推移するとともに、全カテゴリーで売上が増加しました。米国で事業展開しているIMURAYA USA, INC.（以下「IMURAYA USA」と記載）では日本から輸入した井村屋商品の販売が大きく伸長しました。また、井村屋フーズ株式会社においてもOEM受託商品の売上が堅調に推移しました。その結果、連結売上高は、214億93百万円（前年同期比10.1%増）となりました。

損益面では、原材料価格、エネルギーコストが高騰する中、継続した生産性向上活動によりコスト削減が図られました。また、円安の進行で海外事業との取引における為替差益の発生や、建設中の井村屋株式会社の新工場「あのとFACTORY」は、輸出促進に関する補助金収入を得て利益が増加しました。

その結果、営業利益は11億43百万円（前年同期比82.7%増）、経常利益は15億26百万円（同103.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は13億37百万円（同189.8%増）となり、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益において第2四半期連結累計期間で過去最高の業績となりました。

各セグメントの概況は次のとおりであります。

① 流通事業

流通事業（BtoC事業）の中心となる井村屋株式会社では、夏場の主力となる冷蔵カテゴリーの売上が順調に推移し、全カテゴリーで前年同期から売上が増加しました。BtoB事業の井村屋フーズ株式会社では、スパウチ商品の受注が堅調に推移しました。また、IMURAYA USAでは日本からの輸入商品の販売が大きく伸長しました。

以上の結果、流通事業の売上高は192億98百万円（前年同期比11.0%増）となり、セグメント利益は15億93百万円（同50.9%増）となりました。

流通事業におけるカテゴリー別の概況につきましては以下のとおりです。

（菓子カテゴリー）

災害用備蓄商品として評価の高い「えいようかん」が優れた災害食・非常食を国内外に発信する「災害食大賞2022」において「健康・アレルギー対応部門」で優秀賞を受賞し、売上也順調に伸長しました。「もっちりぷるん わらびもち」など「水ようかん類」が好調に推移し、冷凍和菓子の季節限定商品「4コ入 よもぎ草餅（つぶあん）」、「4コ入 黒ごまクリーム大福」も売上増加に貢献しました。また、IMURAYA USAでは日本から輸入したカステラの売上が大きく増加しました。

以上の結果、菓子カテゴリーの売上高は37億50百万円（前年同期比30.3%増）となりました。

(食品カテゴリー)

夏物商品の「氷みつ」の売上が伸長しました。今年発売60周年を迎えた「ゆであずき」や「お赤飯の素」も順調に推移し、新商品の「日本酒香るあんこ」「ラム酒香るあんこ」が好評をいただいております。冷凍食品では「井村屋謹製カレーぱん」やコレステロールゼロの「2コ入 大豆ミートまん」が売上を伸ばしました。井村屋フーズ株式会社の食品加工事業では、高粘性のタンパク入りゼリーや固形入りゼリーの生産技術を活用したスパウチ商品の受託加工が引き続き堅調に推移しました。

以上の結果、食品カテゴリーの売上高は26億76百万円（前年同期比8.5%増）となりました。

(デリーチルドカテゴリー)

「豆腐類」では「美し豆腐」や「大豆屋和蔵 大豆ッ子」の売上が伸長し、新製法で大豆の甘味・風味を引き立てた「そのまま食べて美味しい豆腐」も順調に推移しました。また、秋冬物商品の「チルドパックまん」も順調なスタートとなりました。

以上の結果、デリーチルドカテゴリーの売上高は7億67百万円（前年同期比21.0%増）となりました。

(冷菓カテゴリー)

夏場の主力商品「あずきバー」シリーズが引き続き順調に推移しました。今年で発売10周年を迎えた「やわもちアイス」シリーズでは、限定商品「やわもちアイス 焦がしみたらし」、「やわもちアイス みかん大福味」が好調に推移し、新商品「やわもちアイス パフェ いちご大福味」も好評をいただきました。「ボールアイス」シリーズでは発売50周年を迎えた「メロンボール」や期間限定で販売した新商品の「ドラえもんボール」が売上増加に貢献しました。また、IMURAYA USAでは「やわもちアイス」や「あずきバー」など日本からの輸入商品の売上が増加しました。

以上の結果、冷菓カテゴリーの売上高は100億37百万円（前年同期比4.0%増）となりました。

(点心・デリカテゴリー)

「肉まん・あんまん」などの点心・デリカテゴリーは、8月からのコンビニエンスストア導入が順調にスタートしました。リニューアルした「肉まん」等の定番商品や高付加価値商品が好調に推移し、新しい企画商品も売上増加に貢献しました。

以上の結果、点心・デリカテゴリーの売上高は17億45百万円（前年同期比11.4%増）となりました。

(スイーツカテゴリー)

スイーツカテゴリーでは、各店舗の客数も回復傾向が見られ、売上は前年同期を上回りました。また、「アンナミラーズ」の日本唯一の店舗であった高輪店は国土交通省による品川駅西口基盤整備事業に伴う移転要請に合意し、2022年8月31日で閉店いたしました。発表以来、幅広い年代の多数のお客様にご愛顧を得てまいりましたが、この度はテレビ番組や雑誌等のメディアからも注目され、SNSなどを通じてお客様の発信によるコミュニケーションが活発化したことで、営業最終日まで連日の来店が続き、たくさんの感謝や励ましの声をいただく運びとなりました。ご愛顧に心から感謝し、今後も「アンナミラーズ」ブランドの価値を守り、継続して商品をお買い求めいただけるよう、努力してまいります。

「JOUVAUD (ジュヴォー)」では新たに「La maison JOUVAUD (ラ・メゾン・ジュヴォー) 虎ノ門ヒルズ店」を7月20日にオープンしました。店舗は再開発の中心地であり、上質でハイセンスな居住地として注目される「虎ノ門ヒルズレジデンシャルタワー」2階にあります。コロナ禍でのスタートとなりましたが、高い技術を活かしたプロヴァンス菓子の数々を提供し、集客数も着実に増加しております。

以上の結果、スイーツカテゴリーの売上高は2億66百万円（前年同期比59.6%増）となりました。

(VISON (ヴィソン) カテゴリー)

国内新規事業として2年目を迎えるVISON (ヴィソン) カテゴリーでは、2021年7月より三重県の水と酒米、酵母を使用し、テロワール*に根差した日本酒の製造・販売を行う「福和蔵(ふくわくら)」と、和菓子を販売する「菓子舗井村屋」の2店舗を三重県多気町の大型商業リゾート施設「VISON (ヴィソン)」内にて運営しております。「福和蔵」においては、期間限定で販売している「福和蔵 純米大吟醸」が三重県新酒品評会での優等賞受賞に続き、全国新酒鑑評会においても入賞し、高い評価をいただいております。また、「福和蔵 純米酒」も全国燗酒コンテスト2022において金賞を受賞し、認知度の向上が図られました。「菓子舗井村屋」においては、「酒々(ささ)まんじゅう 芳醸菓」など特色のある商品を店舗にて販売しておりますが、夏場に「かき氷」や「贅沢あずきバー」など夏季メニューが人気となり、売上が伸びました。

以上の結果、VISON (ヴィソン) カテゴリーの売上高は55百万円(前年同期比160.4%増)となりました。

*テロワールはワイン等の生産に関わる「土地の要素」「気候の要素」「人的要素」を総合した生産環境のことを指し、味覚を決定する重要な要素とされています。

② 調味料事業

国内では井村屋フーズ株式会社のシーズニング事業において、家庭内食向けの商材と機能性素材が堅調に推移しました。中国での調味料事業は、依然としてコロナ禍の影響が続く中、売上は増加に転じています。

以上の結果、調味料事業の売上高は20億90百万円(前年同期比2.4%増)となりました。セグメント利益は3億32百万円(前年同期比8.5%増)となりました。

③ その他事業

イムラ株式会社において井村屋商品のアウトレット販売を行っている「MOTTAINAI屋」は、感染防止対策の徹底とお客様へのサービス向上に取り組みました。「ソフトアイスクリーム&スイーツ店WaiWai(ワイワイ)」においては、「贅沢あずきバー」の取扱いを開始し、季節のデザートとともに好評を得ております。

以上の結果、井村屋グループ株式会社の賃貸事業を加えた、その他事業の売上高は1億3百万円(前年同期比4.0%増)となりました。セグメント利益は6百万円(前期は10百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間の財政状態は以下のとおりであります。

総資産は328億3百万円となり、前連結会計年度末に比べ33億81百万円の増加となりました。流動資産は、夏物商品の販売に伴う売掛金の増加などにより、31億82百万円増の139億21百万円となりました。固定資産は、新工場の建設に伴う建設仮勘定の増加などにより、1億98百万円増の188億82百万円となりました。

負債は145億4百万円となり、前連結会計年度末に比べ24億74百万円の増加となりました。流動負債は、未払金や冬物商品の生産に連動した買掛金、短期借入金の増加などにより、24億44百万円増の128億22百万円となりました。固定負債は、長期繰延税金負債の増加などにより、29百万円増の16億81百万円となりました。

純資産は親会社株主に帰属する四半期純利益の増加などにより、9億7百万円増の182億99百万円となりました。

その結果、自己資本比率は前連結会計年度末59.0%から55.7%へ減少しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第3四半期に向けて、下期の主力商品となる点心・デリ商品類の売上増加など、順調に推移する見込みではありますが、不安定な世界情勢を背景に原材料価格や物流コストの上昇が続いており、消費動向も依然として先行き不透明な状況を慎重に考慮し、2022年5月12日付の「2022年3月期決算短信」において公表いたしました業績予想につきましては現時点では変更はありません。

ただし、今後の業績推移等によって通期業績予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,069,855	1,007,808
売掛金	5,188,868	7,046,883
商品及び製品	2,471,511	3,012,235
仕掛品	273,492	348,123
原材料及び貯蔵品	927,417	970,619
その他	809,299	1,537,644
貸倒引当金	△1,201	△1,391
流動資産合計	10,739,243	13,921,923
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	18,399,475	18,601,840
減価償却累計額	△10,588,597	△10,926,509
建物及び構築物(純額)	7,810,878	7,675,331
機械装置及び運搬具	17,179,394	17,727,723
減価償却累計額	△14,053,958	△14,559,207
機械装置及び運搬具(純額)	3,125,436	3,168,516
土地	4,225,372	4,234,328
その他	2,228,472	2,241,279
減価償却累計額	△1,578,766	△1,350,841
その他(純額)	649,705	890,438
有形固定資産合計	15,811,391	15,968,613
無形固定資産		
リース資産	49,842	100,309
その他	70,116	56,479
無形固定資産合計	119,959	156,788
投資その他の資産		
投資有価証券	1,367,050	1,297,116
退職給付に係る資産	889,219	892,335
その他	520,694	592,229
貸倒引当金	△25,061	△25,061
投資その他の資産合計	2,751,903	2,756,620
固定資産合計	18,683,254	18,882,022
資産合計	29,422,498	32,803,946

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,615,246	3,127,912
電子記録債務	1,678,485	1,933,829
短期借入金	1,400,000	2,000,000
1年内返済予定の長期借入金	267,228	184,102
未払金	2,715,407	3,515,114
未払法人税等	488,065	782,554
賞与引当金	527,959	674,135
その他	685,955	605,203
流動負債合計	10,378,347	12,822,852
固定負債		
長期借入金	100,536	50,670
執行役員退職慰労引当金	39,864	44,208
退職給付に係る負債	36,079	36,731
資産除去債務	135,246	135,818
その他	1,340,232	1,414,220
固定負債合計	1,651,958	1,681,648
負債合計	12,030,305	14,504,500
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,576,539	2,576,539
資本剰余金	3,810,519	3,810,519
利益剰余金	8,580,110	9,567,044
自己株式	△3,952	△3,959
株主資本合計	14,963,217	15,950,144
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	104,151	60,891
繰延ヘッジ損益	-	3,554
土地再評価差額金	1,930,419	1,930,419
為替換算調整勘定	13,835	14,805
退職給付に係る調整累計額	336,031	301,419
その他の包括利益累計額合計	2,384,438	2,311,091
非支配株主持分	44,536	38,209
純資産合計	17,392,192	18,299,445
負債純資産合計	29,422,498	32,803,946

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	19,527,365	21,493,196
売上原価	12,649,382	13,710,938
売上総利益	6,877,982	7,782,258
販売費及び一般管理費	6,252,208	6,639,183
営業利益	625,774	1,143,075
営業外収益		
受取配当金	36,866	26,374
受取家賃	19,546	17,566
為替差益	18,993	308,649
新型コロナウイルス感染症による助成金収入	33,179	7,899
その他	35,456	38,579
営業外収益合計	144,042	399,069
営業外費用		
支払利息	14,678	10,514
その他	5,504	4,788
営業外費用合計	20,183	15,303
経常利益	749,633	1,526,840
特別利益		
投資有価証券売却益	-	7,413
補助金収入	3,255	442,169
保険金収入	2,000	-
その他	-	3
特別利益合計	5,255	449,586
特別損失		
固定資産除却損	4,906	7,635
特別損失合計	4,906	7,635
税金等調整前四半期純利益	749,982	1,968,791
法人税、住民税及び事業税	364,902	764,144
法人税等調整額	△84,433	△126,388
法人税等合計	280,469	637,756
四半期純利益	469,513	1,331,034
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	8,077	△6,020
親会社株主に帰属する四半期純利益	461,436	1,337,055

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	469,513	1,331,034
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21,589	△43,260
繰延ヘッジ損益	-	3,554
為替換算調整勘定	39,370	△1,145
退職給付に係る調整額	△38,157	△34,611
その他の包括利益合計	22,801	△75,462
四半期包括利益	492,314	1,255,572
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	481,335	1,259,467
非支配株主に係る四半期包括利益	10,979	△3,895

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	749,982	1,968,791
減価償却費	916,075	823,609
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	131	190
受取利息及び受取配当金	△41,919	△31,450
支払利息	14,678	10,514
為替差損益 (△は益)	△13,500	△186,087
固定資産除売却損益 (△は益)	4,906	7,632
補助金収入	-	△437,266
投資有価証券売却損益 (△は益)	-	△7,413
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,575,758	△1,828,095
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△308,025	△578,153
仕入債務の増減額 (△は減少)	413,629	677,318
未払金の増減額 (△は減少)	876,218	820,431
未払消費税等の増減額 (△は減少)	85,797	△98,842
賞与引当金の増減額 (△は減少)	109,505	145,865
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△15,000	△35,000
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△54,298	△49,439
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△7,567	△3,115
執行役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	10,116	4,344
その他	△288,559	△213,434
小計	876,411	990,398
利息及び配当金の受取額	41,935	31,450
利息の支払額	△14,498	△10,003
法人税等の支払額	△194,613	△414,634
営業活動によるキャッシュ・フロー	709,236	597,211
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△636,917	△919,619
有形固定資産の売却による収入	19,360	550
無形固定資産の取得による支出	△583	-
投資有価証券の取得による支出	△2,228	△2,279
投資有価証券の売却による収入	-	18,397
出資金の売却による収入	3,250	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△617,119	△902,951

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	550,000	600,000
長期借入金の返済による支出	△199,644	△132,992
リース債務の返済による支出	△93,717	△57,718
自己株式の取得による支出	-	△6
配当金の支払額	△312,650	△338,104
財務活動によるキャッシュ・フロー	△56,011	71,178
現金及び現金同等物に係る換算差額	30,650	62,804
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	66,755	△171,757
現金及び現金同等物の期首残高	1,099,980	1,069,855
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	109,709
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,166,736	1,007,808

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	17,386,105	2,041,750	19,427,856	99,509	19,527,365
セグメント間の内部売上高 又は振替高	25,967	79,451	105,419	6,413	111,833
計	17,412,073	2,121,202	19,533,276	105,922	19,639,198
セグメント利益又は損失(△)	1,056,009	306,168	1,362,177	△10,091	1,352,086

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸・管理業及びリース代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,362,177
「その他」の区分の損失(△)	△10,091
全社費用(注)	△726,311
四半期連結損益計算書の営業利益	625,774

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	19,298,774	2,090,940	21,389,714	103,482	21,493,196
セグメント間の内部売上高 又は振替高	32,787	103,199	135,986	7,869	143,856
計	19,331,561	2,194,139	21,525,701	111,352	21,637,053
セグメント利益	1,593,344	332,265	1,925,610	6,936	1,932,546

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸・管理業及びリース代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,925,610
「その他」の区分の利益	6,936
全社費用(注)	△789,471
四半期連結損益計算書の営業利益	1,143,075

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。